

小学校授業補助(明成小学校)

団体名●丸井ゼミ2年／代表者名●岩谷里緒(人間科学部こども学科)、丸井一誠(人間科学部講師)

はじめに

小学校教員の仕事を理解することを目標にしているゼミ生が、現場で働いている教員がどのように児童と接しているか、どのような授業づくりをして、どのようなことを心がけて授業を行っているのか、またどのような学級づくりをしているかを実際に見て学ぶこと、ゼミ生が実際に体験することで、教員に関して新たな気づきを獲得することを目的として行った。

活動内容

週に1回の2時間程度、5月～7月に1学級、9月～1月に1学級、明成小学校側から指定された学級に行き、授業補助を行った。具体的な活動内容として、テストやプリントの丸付け、音読カードや計算カードにハンコを押す作業や、プリントのコピーを頼まれた際は指示に従って行った。また、クラスに貼られている掲示物の張替えなども行った。授業中には、例えば、算数の時間に、計算問題で苦戦している児童がいれば、助言をしたり、図工の時間に物を作る過程の中で躓いている児童がいれば、アドバイスや、実際に作って見せたりもした。特に低学年を担当していたゼミ生は、一人か二人、授業中に先生の話をお聞かせなくして手遊びを始めたり、立ち歩いてしまう児童に対して、注意喚起を行った。7月には、学校の体育の授業でプールが行われていた。授業前と後に忘れ物がないか、確認を行った。また、授業中はプールの中で危険な行為をしている児童がいらないか、確認して回った。また2限目と3限目の間の休み時間は15分の長休みの仲良しタイムでは、児童と一緒に体育館で鬼ごっこや、ボール遊びをしたり、体育館が使えないクラスでは、教室内で縄跳びができるので、大縄飛びをした。

そして、週一回のフィールド基礎演習で、一人ひとりが「先週の授業補助で気づいたこと、悩んだこと」を振り返り、ゼミ生同士で話し合った。

成果・結果の考察

短い時間ではあったが、実際に定期的に小学校を訪問し、ゼミ生にとっては授業を見させてもらう貴重な体験ができた。石川県独自の授業の進め方や主体的に学ぼうとする児童たちの姿、今の児童たちと関わりあえる休み時間など、将来、ゼミ生が小学校教員になったときどのように立ち振る舞えばいいのか、イメージを膨らませるには十分な体験だったといえる。そして、先生方ともコミュニケーションをとれたことで、教員の視点から児童を見ることができたといえる。また、ゼミ生同士での振り返りの時間を設けたことで、児童とのかかわり方の難しさや授業で気づいたことを共有することができた。

今後の課題・展望

今回の貴重な体験を活かし、今後小学校教員になれるように、ゼミ生同士で主体的に授業力を上げること、基本的な知識を身に付け、現場で発揮できるようにすることを今後の課題とする。さらにゼミ生同士で学びを深め、模擬授業のレベルを高めあうことができればよいと考える。

